

【第三回桜植樹式とお花見ツアー】報告

大臣や県知事も参列して桜植樹式

常務理事・事務局長

柚原 正敬
ゆはら まさたか



嘉義の鹿寮隔離苗圃に仮植えされた河津桜

今年は千百本の河津桜を寄贈

本会が育桜会（松前孝廣理事長）とともに取り組んでいる、今年で三回目となる「桜植樹式とお花見ツアー」（三十八名参加）は二月二十八日に日本を出発し三月二日、無事帰国しました。

高雄県・澄清湖と嘉義県・奮起湖で行われた植樹式典には県知事や台湾政府の交通部長、担当局長、国会議員などの要人も参列して、台湾側の期待をひしひしと感じさせる充実したイベントとなりました。もちろん昨年同様、それぞれに立派な記念碑も建立されていて、桜募金篤志者の名前が刻んであります。

今年はすでに一月末、台湾の受け入

高雄・澄清湖の植樹式

先である李登輝之友会（黃崑虎総会長）に、例年より百本多い千百本（本会・千本、育桜会・百本）の苗木を届けていて、嘉義県の鹿寮隔離苗圃に仮植えされて順調に育っています。

二月二十九日の朝、前日遅くホテルに入られた黃崑虎総会長ら李登輝之友会一行と合流し、桜植樹式が行われる高雄県・澄清湖畔へ。

その途中、昨年十二月末、七本の河津桜を移植した高雄日本人学校に立ち寄りました。矢木信夫校長も子供たちも、熱帯の高雄に日本の桜が咲いたことに大感激で、すでにこのことを伝え聞いた台北や台中の日本人学校からも

問い合わせが来ているそうです。

この後、一行は澄清湖へ。会場には楊秋興・高雄県長（知事に相当）、林仁益・高雄市副市長などの要人も参列。神戸高雄事務所長も同席されました。黄総会長、私、松前育桜会理事長、楊県長などが桜植樹の意義についてそれぞれスピーチ。報道陣も多数駆けつけて取材していました。

次に植樹式典の会場に移動。来賓によるテープカットで現れた記念碑には、寄贈の由来が漢文、日本文、英文で記されるとともに篤志者の名前が刻まれていて、皆さん感慨深げでした。

ここには昨年十二月に三十本の接木をした苗木が植えられていて、新たに百七十本の苗木を植樹しました。

一行は昼食後、台南ランタンフェスティバルの会場へ。ここでは蘇煥智・台南県長や顔純佐副県長が私どものためにわざわざ挨拶に訪れ、ランタンフェスティバルについてご説明いただきました。その上、顔副県長が説明役として

同行していただいたのには恐縮しました。ただ、寒波のために一〇度ほどしか気温が上がらず、九二ヘクトールもの広い会場を吹き抜ける冷たい風にはいささか閉口しました。

ランタン会場を後にした一行は黄総会長のご自宅へ。四合院造りという豪奢な邸宅では昨年も夕食をご馳走になりました。今年もおいしい台湾料理と紹興酒で冷えた体もボカボカになり、黄総会と夫人が日本の演歌などを歌って盛り上げていただき、一行の喉自慢の方々も声高らかに歌いつつ台南の夜は更けていきました。



漢文、日本語、英文で寄贈由来を記す
高雄県・澄清湖の記念碑（2月29日）



台南ランタンフェスティバル会場で説明
する蘇煥智県長（中央、2月29日）



七言絶句の詩篇を刻む自然石を使った
嘉義県・奮起湖の記念碑（3月1日）



立派に育つ新竹の河津桜（3月2日）

嘉義・奮起湖の植樹式

翌三月一日は、昨日とは打って変わって台湾らしい暖かさの中、第二の植樹会場である嘉義県・奮起湖へ。

奮起湖は阿里山森林鉄道の沿線にあり、せっかく阿里山まで来たのだからと森林鉄道の旅を満喫してもらいたいという台湾側の粋な計らいにより、終点手前の阿里山駅まで行き、杉とヒノキが群生する様を見ながらたつぷりと旅情を味わいました。

帰りは奮起湖駅で下車し、国道十八号線沿いに設けられた会場へバスで移

動。すでに会場には、台湾政府から蔡堆・交通部長（国土交通大臣に相当）、頼瑟珍・觀光局長、陳晋源・公路総局局長、張花冠・立法委員（国會議員に相当）などが到着していました。陳明文県長は夕食会から参加とのことで、黄癸楠副県長が代理出席。

まず来賓として黄総会長が挨拶、続いて張立法委員、松前育桜会理事長、私、蔡交通部長の順にスピーチ。ここでは、国道沿いに寄贈された三百本の桜を植えて桜の名所にする予定だそうで、張花冠・立法委員が「もっともつと桜を寄贈してもらいたい」と会場を

笑わせ、和やかな雰囲気の中に植樹式と記念碑の除幕式に移りました。

来賓によるテープカットで現れた記念碑は形の良い自然石を使っている、七言絶句の詩篇とともに、篤志者の名前が刻まれていました。

その後、夕食会の会場へ。予定通り陳明文県長も駆けつけて、にぎやかな一夜となりました。

新竹では蔡焜燦氏も同席

いよいよ三月二日の最終日。この日も台湾らしい暖かい陽射しに恵まれ、絶好の花見日和となりました。

ホテルから遠くない新竹市立公園へバスで向かうと、隣接する新竹ガラス工芸館前では新竹李登輝之友会（張震天会長）や新竹市政府関係者が歓迎の横断幕で迎えてくれました。バスから満開に咲いた桜木が三本見えたので一同大感激したのですが、なんとこの桜木の花びらはガラス細工の桜木。しかし、ガッカリしたのも束の間、ガラス

細工の桜木のわきには本物の河津桜がしっかりと植えてあり、新竹の特産であるガラスで桜の花びらを作り、その花びらは夜になると光るという説明を受け、新竹市の力の入れように一同は感激を新たにしました。

これまで桜を育ててきて、私どもとも打ち解けた間柄となった張震夫さんや楊根藤さん、洪日盛さんなどに公園内を案内されつつ、桜木がしっかりと根を張って成長した様子を見学しました。途中からは林政則市長も参加し、姉妹提携している岡山市との交流の模様を展示している姉妹館を自ら案内していただき、さらには昼食会も一緒にしていただきました。

この昼食会には、なんと台北から「老台北」こと蔡焜燦氏（台北市李登輝之友会名誉会長）が駆けつけられ、一同が感激をさらに深めたのは言うまでもありません。いささか体調を崩されていたと仄聞していましたが、張りのある声でお元気に挨拶される様子



台南サイエンスパークに植樹した苗木を確認する松澤寛文理事（後是新幹線の高架）

を拝見し、安堵いたしました。蔡氏の周りには人垣ができ、記念撮影の順番待ちとなる状態でした。

その後、一行は桃園国際飛行場に向かい台湾を後にしましたが、台湾側の桜に対する力の入れ方を肌身を感じ、改めて桜が結ぶ日台の絆をかみしめた次第です。

なお、本会の松澤寛文理事が本年二月、昨年本植樹した南投県・鹿谷郷と台南県・台南サイエンスパークの河津桜の様子について現地を訪問して確認しており、こちらも順調に育っていることを申し添えます。